

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100903		
法人名	社会福祉法人 博友会		
事業所名	フロイデグループホーム桂		
所在地	茨城県東茨城郡城里町上阿野沢545-1		
自己評価作成日	2020年4月	評価結果市町村受理日	2020年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873100903-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873100903-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2020年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フロイデグループホーム桂は地域密着型施設として、地域が開催する行事等にご利用者様、職員共に積極的に参加している。また、当事業所にて開催しているイベント等も地域住民や地域ボランティアへの声掛けを積極的に行い参加を呼びかけ、地域との関係構築に力を注いでいます。また、認知症介護専門施設として、ご利用者様1人1人のニーズに合った質の高いサービスの提供が出来るよう日々創意工夫しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

プライバシーマークをとっている事もあり、記録は全て法人専用のソフトで管理されていた。介護する時はスマホのような物を持ち歩き些細な事や排せつ等に関してもその記録に残されていく。其の為業務に就く前に、利用者の状況が確認でき申し送りの時間が短縮でき、介護に係る時間を増やすことができていた。日中も出来るだけ一人で過ごすことが出来るようにアクティビティー等が行われていた。それらが季節に合わせて廊下等に掲示され季節感を感じることが出来る工夫がされていた。  
\*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を地域やボランティアにも理解してもらえようパンフレットを地域(役場など)に配布している。	理念は職員とも共有されており、その一つである、その人らしい生活を送っていただく為に、利用者本人が日々の生活の中で希望を言い出しやすいよう、望みが叶うような声掛けがされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元商工会へ加盟し、地域行事やイベント等に参加している。	現在はコロナ禍にあり、近隣の散歩を控えている。中庭を活用し、野菜作りなどをして外気に触れている。職員はケアマネ会議等に参加し地域との関りを継続している。また、オンライン面会にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域イベント・認知症カフェ等に積極的に参加して、事業所のアピールや地域の方々への声を聞けるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月毎)に運営推進会議を開催し、行政及び地域の方々から意見を頂き、開かれた運営に努めている。	昨年までは2ヶ月毎に開催していたが、現在はコロナ禍で定期的な開催はできていない。今後は文書等で意見を頂く等、紙面開催を検証したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議だけではなく、毎月定期的に行行政(地域包括支援センター等)に訪問し情報収集、連携を絶やさないようにしている。	市町村に直接出向くことは少ないが、地域包括支援センターとは常に連携を図っている。地域包括支援センターからケアマネネットワーク会議に誘われ、ショートステイの説明等をしてきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を実施し、全職員に周知させ、玄関の施錠や身体拘束など行動を制限する取り組みは常時行っていない。	玄関は利用者の安全を守るために中から施錠しているが、自宅の様に何時でも開けられる様になっている。勉強会も開催し、職員への周知も図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に対する法人内勉強会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者権利擁護に対する法人内勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の締結、解約などの対応は管理者が行い、利用者や家族の申し出に対しても理解頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対して面会時や電話連絡時に意見を聴取できる環境を作っている。	現在は感染予防の為に面会制限があるので、定期的に作成しているホームのお便りに利用者の写真を掲載して毎月送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的(1ヶ月毎)に事業所内のミーティングにおいて職員からの意見を聴取し運営に反映している。	事業所内ミーティングを毎月1回水曜日と決め、可能な限り参加してもらい意見交換をしている。職員も困ったことがあれば、その都度管理者に相談する関係が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期・下期に職員の目標意識を持たせる取り組みとしたチャレンジカード等を記入して、職員の取り組みを評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において毎月勉強会を実施しスキルアップにつとめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネネットワーク連絡会や認知症カフェ等に参加し他事業所との情報共有の場に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人または家族のもとへ訪問し、ご利用者様の声(要望・不安)など相談を受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に本人または家族のもとへ訪問し、ご利用者様の声(要望・不安)など相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅利用時の様子や周辺症状など他のサービス提供(居宅介護支援センターなど)と密に連絡調整し利用時に必要とされるケアの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや掃除等日常生活の中で出来ることを一緒に行い、作物の収穫など喜びを分かち合うなど事業所内での生活の中で共に協働している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちに配慮し、施設に入所されながらも関係を継続できるよう日常の様子のお知らせや外出支援などを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族及び地域の方など面会等の際には特に制限することなく対応している。	現在は面会や外出が制限されている。利用者や家族が双方の心配をしているので、対応できる家族はオンライン面会も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の環境の中で、なじみの関係ができやすいように環境(居室・座席など)に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退所後も必要に応じて相談・助言などを行える体制ができている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中から自然な形で想いを引き出すように関わりをもっている。家族面会時には両者交えた会話の中から聞き出し介護支援専門員がアセスメントを行っている。	その利用者の担当職員が利用者から発せられる言葉に耳を傾け、記録して共有し、思いに応えられるよう努めている。食事に対する希望は、法人の栄養課と相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時に本人、家族から可能な範囲で聞き取り、事前情報を加味しながら相談記録に記載する。入所後も随時語って頂けるような会話を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が常時、ご利用者様に声を掛けたり表情や行動観察することを習慣化して気づいた点をカンファレンスで話し合い検討し、サービス計画書に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中から把握している情報や検討課題、本人・家族の意向などをもとに随時話し合い、即実行し、ミーティング等で周知させたり、カンファレンスで検討、決定し計画書に反映させている。c-repolにより多職種での連携がスムーズになっている。	現在、職員が個人のIDとパスワードを持ち、専用のスマホから日常生活の状況をそれぞれが入力出来る仕組みになっているため、情報の共有がしやすい。計画書のそれらの情報を基に作成されている。看護師との連携もスムーズになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	c-repolに常時記録を残し、ニーズの変更はアセスメントシートに変更記録をのせる。また、ミーティングやカンファレンスでも検討記録し、計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの受け入れなど地域住民に対しても柔軟に施設を開放し施設の機能を十分に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(地元図書館・お寺など)を把握することで日常のケアの中に取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族希望に対して、定期的な受診の介助を実施している。本人及び家族のおかれていた現状を理解し柔軟な対応ができています。	ホームを利用されるタイミングで系列の志村病院を主治医とし、定期的な受診もしているが、突発の受診に対しても柔軟な対応がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の状態異常時または定期的な変化に対して助言・指示を受けられる体制を整え、ご利用者様にとって最善のケアを提供できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の状況または退院時の状況などを病院相談員等との定期的な連絡を実施している。また、早期退院だけでなく状態に応じた適切な医療機関等への情報提供などの対応も実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては終末期ケアに対して対応はしていないが、終末期ケアが対応可能な施設の案内や説明及び受入調整などを行い家族に対しての精神的なケアも実施している。今後の終末期ケア実施にむけて、体制構築をしている。	系列に特別養護老人ホームや病院等がある為、現在看取りは行っていない。しかし、馴染みの環境下で看取って欲しいという家族の希望もあり、今後の終末期ケアについては検討が必要。介護職スタッフは、医療職との連携が取れれば看取りにも取り組んでいきたいとの意向。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にAED講習、救急法など研修を実施している。また急変時の緊急連絡先など周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施し、防災意識向上に努めている。	避難訓練及び災害訓練は日中・夜間を想定し、利用者職員とで実施している。しかし、前回の評価時、次回の目標として掲げた「消防署との連携」が実施に至らなかった。	地域住民の協力を得る為にも、運営推進会議を活用したり、消防署に相談をして、利用者様の安全を守る取り組みを実施して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体でプライバシーマーク取得・更新を随時行いプライバシーの保護に徹底している。またボランティアなどの受け入れ時には移動範囲など動線にも配慮している。	プライバシーマークを取得した事により書類上の個人情報を守られるようになった。機器類に職員のログイン状況も残る。また、それで守られると勘違いしないように、職員の話す言葉にも十分注意するよう配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でも本人の希望や思いが伝えられるような働きかけを行っている。また、行事等を行う際も希望の聞き取り等もやっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で日課はなく、ご利用者様の状況に合わせ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昼間・夜間など生活にメリハリが出来るように行為などに対して随時関わり対応している。女性利用者には化粧の支援等もやっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては常にご利用者様の嗜好に配慮しまた季節感を感じられる食材を使ったイベントなどを計画し対応している。また食事やおやつを一緒に作り、ともに食べることを基本的に接している。	献立内容は本部で管理している。栄養的にバランスのとれた食事がとれているが、現在も職員と一緒に食事をとることはなく、おやつ作り等も行われていない様子であった。	現状、難しい事も理解はできるが、新型コロナウイルス感染が落ち着いたら、利用者が季節感を感じるような行事や調理など、ホーム内での楽しみ事を作って頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の嗜好に合わせて提供し、また落ち着いた環境で過ごせるように馴染みの食器を使うなど配慮している。また水分量を随時記入し把握することで状態に合わせて対応しトータルコントロールを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科衛生士が来所して指導・助言を行っている。またご利用者様の要望なども加味したうえで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを知り、トイレ誘導等の排泄ケアを行っている。	排泄の記録はソフト上に記入されており、パターンが分かっている方は早めにトイレに誘導する。それ以外にも、日常生活の中でそわそわしている様子が見受けられれば、さりげなくトイレに誘い支援していた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬に頼りすぎないように水分・食事及び活動などを促し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間の入浴予定は作成しているが、その日の体調や気分等を尊重し、随時変更を行っている。	週2回程度は入浴できるようになっているが、それ以外にもリズム・気分に合わせて9時から16時までの時間を上手に使い入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なりネン交換の実施などを行い、常に清潔保持に努めている。また空調管理などご利用者様のニーズに合わせて個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋など変更時には職員に周知し、状態の変化などタイムリーに観察できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で屋内だけでなく屋外においても楽しみ(梅の花見や梅の収穫など)を感じられるように環境の整備を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出できるイベントなどを計画し実施している。また個別の外出に対してもニーズに合わせ対応している	感染症のこともあり、現在は外食も外出もできていない。しかし、自由に外出出来ていた頃は、ご本人の思いに答えられる様な外出支援がされていた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所ではお預かりしていないが、本人で管理できる方に対しては対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話に対しては特に制限なく対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花や、季節感の感じられる物品を多く配置している。	回廊の様になっている建物の中庭で野菜や花を栽培し、それを眺め、できる方には手伝ってもらいながら外気に触れ、五感の刺激を受けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には小人数で過ごせるスペースや腰を落ち着かせる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋室・和室が設定しており、本人の生活歴やニーズに合わせて提供できる。またご家族に協力していただき、なじみの家具や物品などを配置し本人の生活しやすい空間づくりに配慮している。	ホームには予め生活に必要な最低限の物が準備され、それ以外は自宅から馴染みの有る物を持参するようお願いしている。使い慣れた布団を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内環境の案内板などは形式的なものではなく、ご利用者様が見やすく理解しやすい言葉で統一している。		

(別紙4(2))

事業所名: フロイデグループホーム桂

## 目標達成計画

作成日: 2020年10月9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間
1	35	避難訓練及び災害訓練は日中・夜間想定で実施しているが、地域住民の方の参加と地元消防団との連携が実施できていない。	避難訓練・消防訓練に地域住民の方の参加と地元消防団の参加をして頂き、万が一の事態に協力体制がとれるように取り組みをしていく。	・運営推進会議にて区長さんへ協力依頼する。 ・区長さんより消防団へ参加協力依頼をお願いする。 ・消防訓練実施前に地域住民へ案内の配布をする。 3ヶ月
2	40	食事に関して職員が食事を作り提供しているが、イベント等でおやつなどを一緒に作るということができていない。	利用者様が季節感を感じて頂けるようなおやつ作り、職員と一緒に調理ができるようなイベントを計画し、新しい生活様式での楽しみを作っていく。	・月1回のイベント計画を実施。春夏秋冬年4回季節に合ったおやつ作りの計画を行う。 ・新様式での衛生管理、感染予防を徹底したうえで一緒に調理をしていく。 12ヶ月
3				ヶ月
4				ヶ月
5				ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。